



【編集・発行/札幌くらぶ】 064-0931 札幌市中央区中島公園1-15 札幌交響楽団事務局気付
 メール: info@sakkyoclub.net
 ホームページ: http:sakkyoclub.net/sakkyoclub/

2013. 1

61

札幌交響楽団がまちにあふれる音楽都市札幌に向けて(その2)

〜上田札幌くらぶ会長と小沢札幌専務理事との対談〜

音楽都市さっぽろを目指す、さっぽろ元気づくりのために!

○札幌専務理事 キタラは世界的なホールです。キタラに来た指揮者が世界中のオーケストラでキタラの素晴らしさを話すそうです。我々がヨーロッパ公演で出会ったような、札幌は知らないけれども、「キタラは知っている」というような人が出てくる。札幌はキタラができて、さらに加速して成長したとよく言われます。

○札幌くらぶ会長 この50年、「札幌って何?」という人はいないぐらい、札幌という言葉は市民に浸透している。それぐらい札幌の50年にわたる音楽活動は、しっかりと札幌・北海道の音楽文化にとって無くてはならないものとして札幌市民に道民に定着しています。



左: 上田札幌くらぶ会長、右: 小沢札幌専務理事

美しい音楽の調べを聴いて「いいなあ」と感ずることが出来る人たちの集団10人と、全く聴いたことのない人の集団10人とに分けて、同じテーマで何かの問題を議論したら結果は絶対に違ってくると思う。特に人間の心の機微にかかわるテーマとなれば、深さや豊かさのレベルは確実に異なってくると思います。

僕は芸術というのは感動を共有する世界だと思っています。相手の気持ちやわかるとうとする、よき響きを聴いて涙する、こういう共感や感動の経験を持てる人とそうではない人では、心の豊かさに違いがあると思っています。まだ豊かな音楽芸術に接する機会がない人々、あるいは音楽の素晴らしさに気づかないでいる人々に対して、札幌はこれを提供し理解してもらえようように活動する社会的使命がある。その使命こそが「公益性」の所以だといえるでしょう。これを実現するために札幌くらぶは活動を発展させていきたいと思っています。

○札幌専務理事 私はセールスに

しろ、サービスにしろ、パブリシティにしろ、どういふふうにやっていくのか、どういふ問題があつて、解決するためにどういふプランをつくらなければいけないのか、どういふ行動を起こさなければいけないのか、その辺の戦略が重要だと感じています。

3カ年計画、5カ年計画でもいのですけれども、とにかくきちんとプランを作つて、札幌くらぶをはじめ皆さんにいろいろとお願ひしてやっていきたいと思ひます。単に企業からの寄付金が減つたから、今儲かつていそうな企業を調べてお願いに行くだけではなく、長期的、全体的な計画がないとまづいかないと思ひます。

私は、札幌くらぶ、ピリツキ、札幌合唱団を含めて札幌グループというふうには認識しているのですね。札幌ファミリーというか、一緒にやっていきたいと思ひます。さつき会長がおっしゃつたように、音楽というのは生きていく上で必要なのだと思ひます。いい音楽を聴いてもおなががいっぱいになるわけではないけれども、感動は必要なことです。仙台フィルがそうでした。震災のとき会場が

壊れて演奏ができなくなり、そのとき楽団員が分散していろいろな被災された方々のところで演奏をしたら、聴いた方の生きる力になったといっています。やっぱり音楽の力だと思ひます。

○札幌くらぶ会長 コンサートに行くこと自体、札幌の役に立っていることなのだけれども、それだけではなく、札幌くらぶ会員が「楽譜支援」(注2)として、自分たちが寄附した楽譜で楽団員が演奏していると思うとそくそくするじゃないですか。そういうふうな意味での親密感が生まれると思ひます。本日は定演プログラムの最後に、今日演奏した曲の楽譜は札幌くらぶが提供したと書いてくれると嬉しいし、もつと運動が広がると思ひますね。札幌は良質な音楽文化を深め広める社会的使命を負う団体なので、その使命達成のためにあらゆる努力をしなければなりません。その使命に共感し、活動する市民の運動を進展させる賢さも備えなければなりません。定演プログラムの聴衆とのコミュニケーションの場と位置づけ、音楽文化・札幌の音楽を広めてゆく市民の力を醸成していくことが有効だと思ひます。

寄附文化の発展は、市民の多様な社会参加を促進します。札幌への楽譜支援のために寄付をする行為は、札幌の活動を共にするとい

う意識を生み出します。「札幌の演奏を単に楽しむだけではなく、札幌と一緒にできることをしたい」という意識の市民の方々がたくさん出てくる。そしてそんな市民に支えられたオーケストラが活動するまち、僕は大きな誇りを持てると思ひます。

注2:「楽譜支援」は2006年札幌くらぶ創立10周年ビジョンの一環として、札幌くらぶの会員が「何かの形で札幌運営の助けに参加している、貢献している」ところを明確に理解できる施策として会員に提案。会費2,500円のうち500円を楽譜支援案の購入や著作権使用費用等に充て、さらに会員が任意で追加支援ができる仕組みとして、毎年50万円が寄附され昨年で300万円に達しており、追加支援の輪が年々増加し昨年は160名を超える札幌くらぶ会員が追加支援に参加している。使途の詳細は札幌くらぶホームページに掲載されている。

○札幌専務理事 札幌市民、北海道民が札幌を誇りに思えるようになりたいと思ひます。それには、まずはいい演奏をすることです。野球やサッカーのようにスポーツだったら道外のチームに勝つというところで地元の誇りになれるかもしれませんが、札幌の場合は道外や海外でも評価を高めることだと思ひます。札幌がロンドンやミュンヘンで絶賛されたらいいとか、札幌のCDが雑誌や新聞で推薦盤になったなどと聞くと、札幌はなかなかのレベルなのだといふふうには再認識していただけるかもしれません。それから、キタラで札幌を聴くことが札幌観光の定番になるといいと思ひます。観光でウイーンだとかミュンヘンなどに行つたら、やっぱりその地の

オペラやオケに行きたいと思いま
すね。札幌に旅した観光客が同じ
ようにキタラに札幌を聴きに来て
くれるようになったらいいなと
思っています。

それと最近の演奏会で、お客様
から他のお客様に対する苦情が多
くなっていることは悲しいですね。
隣の人があるさといか、前の人が
目障りだとか、本当に増えています。
ここで札幌くらぶさんに知恵
をおかりしたいなと思います。み
んなで仲良く札幌の演奏を楽しむ
雰囲気づくりですね。定期会員の
お隣同士で「今晚は、お元気です
か」「今日はすこかったですね」
というような話ができるような、
そんなあたたかな空気がホールに
流れるようになればもっと嬉しい
ですね。

札幌のニューイヤーパー
ティーはすごく評判いいですね。
札幌がクラシックだけでなくピッ
グバンド・ジャズを演奏したり、
楽団員も会員の皆さんと一緒にお
酒を飲みながらしゃべっています
でしょう、あの雰囲気がいいとい
う人がいっぱいいる。

札幌くらぶ会長 札幌のイベン
トには必ず札幌が出演するとか、
頼まれれば出るということではな
く、札幌自身の判断で札幌の演奏
がふさわしいと思う場面を探し提
案することが必要だと思います。
オータムフェスタもあれば、雪ま

つりはちよつと寒いけれども、テ
ントでも張つてき、透明ガラス中
で…(笑)

音楽都市さっぽろを目指すとい
うためには、PMFとのコラボ
レーションが大切だと思います。
札幌にとつてキタラとPMFは財
産です。これと札幌がしっかり連
携して、札幌の音楽シーンには必
ず札幌が出てくる。フルオーケス
トラである必要は必ずしもありま
せん。必ず札幌の出番があるよう
にするとか、そんなことが当たり
前になることが大事なことと思
う。

札幌専務理事 話は変わります
が、実は私の小学校は夕張だった
のですが、そのときに今でも鮮明
に覚えていることがあります、
当時はまだ給食がなくて弁当だつ
た。弁当を食べるときに必ずベ
トーヴェンの「田園」がかかった
のですよ。それはいまでも本当に
よく覚えていっているのです。

札幌くらぶ会長 これですよ！
毎朝これやりませんか。札幌は音
楽教室をこまめに実施してきまし
たね。その歴史を大切に、学
校の校内放送用のオーケストラ名
曲集というCDを作り、市内すべ
ての学校に配付する。それで、曲
が終わるときに「札幌交響楽団の
演奏でした」と必ず言つて欲しい
と。

それと、これも何年前に提案

したことだけど、道内に民放が5
局あつて、定期演奏会10回あるか
ら、年に2回、深夜放送でもいい
のですよ、ぜひ放送してほしい。
録画しますから、2時から4時ま
でとかね、そういうふうなことが
できないかしらと。

札幌専務理事 理事会でも話題
になりますね。民放各社の社長さ
んは理事になっていきますけれど
これからは放送、インターネット
など、様々なメディアを通じて札
響の演奏活動をひろくお伝えして
いきたいと考えています。

それから、札幌は、オーケスト
ラ・コンサート以外の活動も積極
的に行うオケです。コンサートに
行きたくても行けない人たちに、
こちらから出かけて行って聴いて
もらう、それは福祉施設だったり、
病院だったり、昨日も病院で演奏
してきましたけれども、そういう
たところにとんどん出て行く習慣
があります。それを本当に喜んで
行っているという意味では、この
オーケストラはずばらしいと思つ
ています。そういう活動を地道
に繰り返していけば、音楽都市
さっぽろというか、北海道が明る
い雰囲気になるのではないかと
思っています。

札幌もあの経営破綻を知らない
人たちが増えてきています。あの
つらさを経験したからこそ今のよ
うなアウトリーチ活動に熱心な札



対談出席者(右から)宮下部長、小沢専務、上田会長、
西川副会長、定政次長、写真撮影、武藤事務局長

いけないですね。
○札幌専務理事 こういう地道な
活動にも目を向けて欲しいので、
開催前には必ず報道機関には連絡
しています。それと、定期演奏会
のプログラムの「札幌日誌」ペ
ジでも紹介させて頂いています。

札幌くらぶ会長 ホームページ
やフェイスブックなど新しいツ
ルを駆使していくというのは重要
なことだと思います。北海道新聞
に「雪に根ざした音楽を、緑のよ
うに街中あふれさせたい」とい
う札幌団員さんの記事が紹介され、
団員さんたちもこういう思いでい
るのだらうなと思いますね。私た
ちも「札幌くらぶ」という会報で
指揮者の方々と団員さんの声を
しっかりと伝えることによつて、
音楽家と市民のバイ役になれる
と思つています。

札幌くらぶ会長 定期会員の皆
さんには、僕たちを含めて、札幌
の活動が見えるようにしなければ
対談ありがとうございます。最後にお二人から一言お願いします。

札幌専務理事 上田会長との対
談の機会をいただきまして感謝申
し上げます。上田会長の札幌への
熱い思いをじかに拝聴して改めて
「札幌交響楽団は北海道の宝」と
いうことばを実感いたしました。
同時に「宝」は、ほうつておくと
すぐに輝きを失うことになりかね
ません。そうならないように常に
磨きをかけなければならぬ、と
いうことも感じました。今回の対

という概念があります。法律家の
間でよく用いられているのですが、
専門的知識や技術を用いて無償で
社会貢献することをいいます。「プ
ロボノパブリコ」直訳では、「公
共善のために」ということだそう
です。

音楽という人類が創りだした最
良の創造物の恩恵を、音楽家とい
うプロフェッショナルによつて広
く市民が享受できるようにする、
その活動は、まさに公益でありま
す。札幌はそのような使命を負つ
ている団体です。より多くの聴衆
たる市民・道民が音楽文化を享受
することができるように、また時
には無償で教育的活動をする事も
含めて事業を進展させて欲しいも
のだと思います。

札幌くらぶはそのような札幌を
愛し、そのような札幌の活動を支
援する活動団体が在り続けたいと
思つております。本日はありがと
うございました。

○司会 長時間にわたる対談あり
がとうございました。誌面の都合
もあり全部を掲載することはかな
わなと思います。ご容赦くだ
さい。これからのような対談
を計画していきたいと思つて
札幌くらぶの今後の方向も楽団事
務局と十分話し合いながら進めて
いきたいと思つています。本日はあり
がとうございました。
(札幌くらぶ副会長 西川吉武)

「第6回JOFC総会 in 札幌,12」開催

平成24年11月10日 札幌パークホテルパールルーム

前日の雨も上がって、晩秋のさわやかな青空が広がり、中島公園の銀杏並木はやわらかい陽光を受けて鮮やかな黄金色に輝き、2006年11月にJOFC設立会議を開催して以来6年ぶりに札幌で開催される第6回JOFC総会 in 札幌（日本プロオーケストラファンクラブ協議会総会）を歓迎しているようでした。

第6回JOFC総会 in 札幌は、午前12時から総会に続き、第554回札幌定期演奏会の鑑賞、交流会を開催し、最後に二次会で締められました。その模様を報告いたします。

会 総

総会は、仙台フィルハーモニークラブ、山響ファンクラブ、群響ファンズ、石川県立音楽堂楽友会、名フィル・ファンクラブ、広響フレンズ、札幌くらぶの7団体、75名の参加と、来賓として小沢札幌専務理事、可児札幌市観光文化局長、杉本札幌市文化部長、三石川県音楽文化振興事業団常務理事、柿崎キラ管理課長の五氏のご出席を受けて定刻より少し遅れて開催されました。

歓迎のあいさつ

上田札幌くらぶ会長は歓迎のあいさつで、まだ紅葉が残っている美しい札幌の季節の中で、音楽を愛する仲間が札幌に集まり、旧交を温め、情報を交換しながら私たちのオーケストラが発展でき、まちを豊かにする活動できることを確認する議論ができること、そし



上田札幌くらぶ会長(JOFC会長)

て昨年、SPCは仙台フィルの活動支援に、JOFCとして会員がそれぞれ義援金を募り仙台フィルに直接贈るなどの活動をし、音楽の力を遺憾なく確認しました。それぞれの活動報告を聞き、学びあい、力づけあいながら地元に戻り、オーケストラを支援し、日本の地域の音楽文化を発展させるために頑張りましょう、と話されました。

来賓の紹介と来賓のあいさつ

来賓五氏の紹介後、小沢札幌専務、可児観光文化局長のお二人から来賓としてのあいさつをいただきました。

小沢札幌専務理事 札幌くらぶ

ぶから創立以来16年にわたり主催のコンサートを開催していただき、定期演奏会に毎回中学生を招待していただいたり、楽譜購入に支援していただいたり、会報で札幌の活動を紹介していただいたりと色々な面で支援いただいで感謝しています。

可児札幌市観光文化局長 札幌くらぶの政策提言で始まった小学6年生に全員にキタラで札幌の演奏を聴いてもらうファーストコンサート、すでに10万人以上が聴いています。



左から司会者席(2人)、主催者席(5人)、来賓席(5人)

このようなことができるのも札幌に札幌交響楽団があり、その活動を支えている「札幌くらぶ」というファンクラブの存在があったからこそ実現できたと思っと思っています。

幹事の指名

議案の二つ目は、SPCと広響フレンズの役員交代による幹事の



可児札幌市観光文化局長 小沢札幌交響楽団専務理事

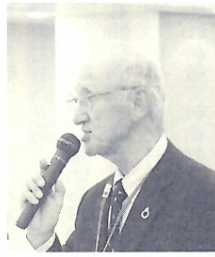


小野群響ファンズ会長から長島SPC会長に義援金(目録)贈呈



「第6回JOFC in 札幌」総会会場(札幌くらぶは後側の席)

交代で、佐藤SPC事務局長、佐藤広響ファンズ代表が上田会長から幹事に指名されました。会員拡大に関する活動報告 続いて、会員拡大に関する各クラブの活動報告に移り、次のように報告されました。 広響フレンズ 広響における広響フレンズという会員制度は3月31日をもって終了し、サポート会員という寄付会員制度に移行しました。現在はほとんどのスタッフや支援者を中心に、楽団員やユニオンと任意に集まって、体制づくりとかは具体的になっていませんが、来年は無理としてもその次かその次には、広島で総会を開催したいと思っています。 名フィルファンクラブ これまでの活動を鑑み、幹事の会合を定期的に月1回必ず開く、活動計画を確立する、ミニコンサートを年2回開催する、アンケートを実施してクラブに何を求めているか把握する、会報紙の発行を年2回から3回にする、定期演奏会曲目の事前勉強会の開催、会員特典の見直しなどをし、会員拡大に繋げたい。 石川県立音楽堂楽友会 定期演奏会会場におけるチラシ配布、定期会員拡大支援における新会員、ロビーコンサートに参加者、国内外のコンサート鑑賞ツアー参加者、ハーサル見学会後の茶話会の参加者などに入会を勧める地道な活動を継続する。



静岡石川県立音楽堂楽友会代表理事



山田名フィルファンクラブ代表理事



佐藤広響フレンズ代表

群響ファンズ 団体会員から個人会員に移行し、現在の会員は解散した地域の応援する会の会員、楽員、群響合唱団団員など口コミによるもので、音楽センターに設けているブースによる会員募集などとともに楽員やOBの直接勧誘が効果的だと考えている。

山響ファンクラブ 現況は毎年入会、退会がほぼ同人数で会員数は増えていない。また、積極的な勧誘活動も行っていない。クラブ15周年が3年後にやってくるので、会員特典を充実するなどして会員を増やす活動をしていきたい。

S P C 仙台フィルのファンが自主的に立ち上げ、運営している会で、200名ほどいた会員は現在100名ほど、しかし、現在のほうが運営は充実しており、活動にもよるが数が多ければよい、というものは無いと思う。ただし、今後は若い世代に対するアプローチを考え、若い



保科山響ファンクラブ事務局長 石守群響ファンズ事務局長

代に対するアプローチを考え、若い層の会員を増やすことが会員増に繋がっていくと思っている。

札幌くらぶ くらぶの活動を魅了するものに、それを広く発信するため、札幌くらぶサロンの開催など会員の活動への参加、ファミリー会員の入会や会員による口コミなど7項目の活動による会員活動の実施で会員拡大をはかる。

活動報告に対する質疑ではないが、長島SPC会長から、事務局の支援を期待せず、ゼロから立ち上げ、2年、3年、4年、5年、10年と続けていこうということだけで頑張りて欲しい、と広響フレন্ズにエールを送り、佐藤広響フレন্ズ代表から、悲観しているわけではないが、大変励みになりました、来年は少しでも進歩しているようにしたい、と応えました。

上田会長は、私たちがオーケストラを愛し、豊かな気持ちになれる人たちを増やす、そのためには



武藤札幌くらぶ事務局長 長島 SPC 会長

「次開催地の決定」 続いて次回開催地について、武藤事務局長から広響フレন্ズの辞退により、SPCに打診の結果、第7回総会は仙台で開催することしたいと報告、承認され、長島SPC会長から震災復興中であり、身の丈にあった歓迎をしたいのご理解願いたい、との受託のあいさつをされました。

閉会のあいさつ これですべての議案審議が終了し、工藤副会長は閉会あいさつで、JOFCは悩みの打ち明けあいから始まったが、会を重ねるうち実効性を持ち始め、震災のとき仙台フィルとSPCをどのように支援するか即座に動き出し、色々な支援策が実行され、励まされました。被災地の復興はやっとならないうちに着いたという感じですが、今後とも皆様の暖かいご支援、まなごしを今後とも期待し、お願ひいたしました。と話され、閉会しました。

閉会后、総会参加者全員で記念写真を撮影し、第554回札幌定期演奏会を聴くため、紅葉の中、公園の中、キタラに向かいました。

札幌宣言 札幌宣言の発表と採択では、西川幹事長から宣言の作成に当たったの理念その他の説明があり、上田会長から「札幌宣言」が発表され、採択されました。

次開催地の決定 続いて次回開催地について、武藤事務局長から広響フレন্ズの辞退により、SPCに打診の結果、第7回総会は仙台で開催することしたいと報告、承認され、長島SPC会長から震災復興中であり、身の丈にあった歓迎をしたいのご理解願いたい、との受託のあいさつをされました。

第554回札幌定期演奏会

指揮/尾高 忠明(音楽監督)
ピアノ/ジョン・リル
ベートーヴェン/ピアノ協奏曲第5番変ホ長調 Op.73
「皇帝」
エルガー/交響曲第1番変イ長調 Op.82



「第6回 JOFC in 札幌」総会出席者全員による記念撮影(札幌パークホテルパルルームにて)

交流会

演奏された曲は、バッハ/無伴奏チェロ組曲第3番ハ長調 BWV 1009より「プレリュード」と



加藤 JOFC 副会長 (山響ファンクラブ顧問) 鈴木札幌くらぶ副会長

交流会は、総会と同じ会場、札幌チェロ首席奏者石川祐支氏のオープニングソロコンサートが始まりました。

「ブルー」でした。鈴木札幌くらぶ副会長は、「音楽は人の生きる力の支えになる」と札幌宣言にあるように、私たちがオーケストラファンはまちを支える力になりたい。皆様が愛し、誇りに思うオーケストラのことを語り合い、絆を深める交流会になることを願う、と話された。

開会のあいさつ 加藤副会長は、三二一では自分も仙台出張中に被災し、山響も鶴岡でリハール中に地震にあった。それから1年4ヶ月後、山響と仙



工藤 JOFC 副会長 (SPC 顧問)

ら始まったが、会を重ねるうち実効性を持ち始め、震災のとき仙台フィルとSPCをどのように支援するか即座に動き出し、色々な支援策が実行され、励まされました。被災地の復興はやっとならないうちに着いたという感じですが、今後とも皆様の暖かいご支援、まなごしを今後とも期待し、お願ひいたしました。と話され、閉会しました。

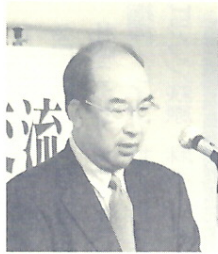
閉会后、総会参加者全員で記念写真を撮影し、第554回札幌定期演奏会を聴くため、紅葉の中、公園の中、キタラに向かいました。



石川祐支札幌チェロ首席奏者



小野 JOFC 副会長
(群響ファンズ会長)



村田札幌交響楽団理事長

台フィルの復興合同演奏会が実現、山響ファンクラブとSPFCも共同で手伝い、そこにはJOFCの魂が入っていたことをこの場を借りて報告いたします、と話された。

来賓のあいさつ
村田札幌理事長 オークストラを維持していくには三つの要素が必要、一つ目は交響楽団自身の演奏能力の維持と発展、二つ目はすぐれた演奏会場の確保、三つ目は地域の支える力です。特に三つ目の地域の支える力の軸になるのはファンクラブの活動です。お互いに交流することにより、成功体験の共有して失敗の共有、最も重要なのはJOFCのような形でお互いに知り合うこと、信頼関係の醸成がオーケストラ活動を支える力になる。

開宴(乾杯)

小野JOFC副会長は、ポイントを絞った各クラブの報告、札幌宣言の背景にある理念、こうしたものを



三国石川県音楽文化振興事業団常務理事



杉本札幌市観光文化局文化部長

常務理事 札幌に倣ってお国自慢として、石川県は小さいけれども古いものがたくさんあります。

来賓のスピーチ
しばらく欲談ののち、来賓の方々からスピーチをいただきました。
杉本札幌市文化部長 札幌アートステージについて説明し、今後ともオーケストラと市民の架け橋として、地元オーケストラの支援と、それぞれの都市の音楽文化の振興にご尽力いただきたい。
三国石川県音楽文化振興事業団常務理事 札幌に倣ってお国自慢として、石川県は小さいけれども古いものがたくさんあります。



柿崎札幌市芸術文化財団コンサートホール事業部管理課長



宮澤札幌交響楽団事務局長

参加クラブ等の紹介
続いて、参加クラブの紹介となり、

お茶の文化もあります。オーケストラ・アンサンブル金沢は来年25周年を迎えます。ぜひ金沢、石川へ足を運んでいただきたい。
宮澤札幌事務局長 オークストラにとって重要なことは、プレイヤ、事務局の頑張りに加え、お客様のご支援です。お客様が喜んでくださったとき、私たちの心に大きな喜びが生まれます、との尾高音楽監督のメッセージを紹介されました。
柿崎キタラ管理課長 札幌と札幌コンサートホールの関係、特に工事中での音響設備などの設備は、札幌との議論を重ねて今がある。いいホールの条件は、いいオーケストラが存在する。札幌の音を語るためにはキタラの音響を語るに等しいと考えている。札幌とコンサートホールは信頼関係を持って、これからも一緒に歩んでまいります。



広響フレンズ



札幌(左から石川さん、土井さん、物部さん)

以上で交流会の全てが終了し、西川幹事長から閉会のあいさつとして、札幌くらぶは札幌市内で音楽に係わっている中学生に札幌の演奏を心にとけて刻んでもらおうと、札幌定期演奏会に毎回招待し、今年度は500人に達する。札幌と手を携えながら、札幌くらぶも一層進歩する、一緒に発展していく、各クラブにおかれてもオーケストラと何ができるか、一緒になってプロデュースしたらこんなことができたよ、と来年の活動報告のテーマにしたいと思っております。「仙台で会おう！」で乾杯して閉会とします、と話して閉宴となりました。

閉会のあいさつ
以上で交流会の全てが終了し、西川幹事長から閉会のあいさつとして、札幌くらぶは札幌市内で音楽に係わっている中学生に札幌の演奏を心にとけて刻んでもらおうと、札幌定期演奏会に毎回招待し、今年度は500人に達する。札幌と手を携えながら、札幌くらぶも一層進歩する、一緒に発展していく、各クラブにおかれてもオーケストラと何ができるか、一緒になってプロデュースしたらこんなことができたよ、と来年の活動報告のテーマにしたいと思っております。「仙台で会おう！」で乾杯して閉会とします、と話して閉宴となりました。



右から石川県立音楽堂楽友会、群響ファンズ、山響ファンクラブの皆さん



右から仙台フィルハーモニークラブ、名フィルファンクラブ、札幌くらぶの皆さん



2月～4月の定期・名曲シリーズ 演奏会を楽しく聴くために

八木 幸 三(札幌くらぶ会員)

第556回札幌定期演奏会

2月1日(金) A日程 19:00
2月2日(土) B日程 15:00
札幌コンサートホール大ホール
指揮/レイフ・セーゲルスタム
ピアノ/萩原 麻未



レイフ・セーゲルスタム



萩原 麻未

ブラームス/悲劇的序曲

ブラームスは、ドイツのプレスラウ大学から名誉博士の称号を贈りたことでの申し出があり、そのお礼の意味を込めてあの有名な「大学祝典序曲」を作曲する。この曲は1880年夏に完成されるが、その直後に「大学祝典序曲」と対をなす、相反した性格の「悲劇的序曲」が翌年にわたり作曲された。ブラームスは、ジムロックに宛てた手紙で「この非常に楽しい大学祝典序曲のちに、悲劇

的序曲を書かないではいられなかった。」と書いている。それは、例えばベートヴェンが、対称的な作風である交響曲第5番と第6番を同時期に書いたように、またブラームス自身の交響曲第1番と第2番やピアノ四重奏曲の第1番と第2番のような関係なのかもしれない。

グリーグ/ピアノ協奏曲イ短調

1867年にグリーグは、従妹のソプラノ歌手ニーナと結婚し女兒が生まれた後コペンハーゲン近郊の農村で閑静な環境のもとこの曲を作曲した。25歳の時で、幸福な私生活を反映してか曲は澁刺とした清新な楽想で、ノルウェーの郷土色が感じられる豊かな旋律や和声に彩られている。この曲は、ネウバルトのピアノ独奏により演奏され、初演から大成功をおさめた。元々ピアノの名手でもあったグリーグは、ピアノの機能を十分に生かしたこの曲を後にリストに見てもらっている。その時リストは、所見でこの曲を完璧に弾きこなし、「この調子で進んでいきたまえー」とグリーグを賞賛したと言った。

セーゲルスタム/交響曲第245番「Eylighthinn」

245番「Eylighthinn」
自作曲による世界初演

この定期演奏会の指揮者レイフ・セーゲルスタムが、自作自演する世界初演の交響曲は、なんと第245番と桁外れの番号がついている。まさにハイドンもびっくりだ。編成は小さいようだが、ハーブや多くの打楽器が用いられ、2台のピアノのうち1台はセーゲルスタムによって演奏される。

R・シュトラウス/交響詩「死と変容」

作曲者が大病をした時の思いを聞いた詩人リッターは、「暗い部屋に瀕死の病人が横たわっている。時計が不気味に時を刻む。すると、死は病人を揺り起こし、生への執着と死との闘いが始まる」といった詩をつくる。「変容」とは、死の苦しみからの解放を意味するものだが、この詩はこの曲の総譜にも記されている。

森の響/フレンド「コンサート札響名曲シリーズ Vol.5」

音楽が紡ぐ物語
「パリで結ぶエピソード」

2月9日(日) 15:00
札幌コンサートホール大ホール
指揮/高関 健

ヴァイオリン/山根 一仁



高関 健 ©Satou, Mitsuru



山根 一仁(三浦典一撮影)

オネゲル/交響的断章第1番「バシフィック231」

ドヴォルジャークが、相当の鉄道マニアであったことは有名だが、オネゲルも機関車の熱烈なファンだった。当時はもちろん蒸気機関車で、あのメカニクな塊が巨大な車輪を力強く動かす姿は確かに迫力があり魅力的だ。題名の「231」は、機関車の前輪2、動輪3、従輪1を意味している。ちなみに日本の蒸気機関車なら動輪3が「C」、4が「D」と言ったところか話かマニアックになってしまったが、オネゲルがムーブメント・シンフォニーとして作曲した最初の作品で、「機関車の音そのものを模倣するのではなく、その視覚的印象を身体が感じる楽しさを音楽的構成によって翻訳することだ」と作曲者自身が述べている。

ラロ/スペイン交響曲(ヴァイオリン)

オリン協奏曲第2番

一昨年、大平まゆみさんの妖艶な独奏ヴァイオリンに魅了された「スペイン交響曲」が、再び札幌を伴って聴くことができる。今回の独奏は、札幌出身で今注目の若手ヴァイオリニスト山根一仁だ。今年、オーケストラ・アンサンブル金沢と「ツイゴイネルワイゼン」などを卓越した技巧で叙情的に聴かせたが、彼の澁刺としたボーイングからどんなスペインの風景が浮かび上がるのか楽しみ。この曲は、交響曲と題名がつけられているが、ラロがサラサーテのために書いた純然たる協奏曲。ラロはフランス生まれだが、祖父の代までは完全なスペイン人で彼もスペインの血を受け継いでいる。さらに当時、フランスを中心にビゼーの「カルメン」をはじめスペインブームがわきおこっていたことも作曲の動機になっているのではないか。

ベルリオズ/劇的交響曲「ロミオとジュリエット」(抜粋)

ベルリオズは、自分の交響曲にさまざまな要素を取り入れている。名曲「幻想交響曲」は標題的な要素を、札幌10月定期で演奏された「イタリアのハロルド」では、ヴァイオリンによる協奏曲的な要素が見られる。この「ロミオとジュリエット」は、独唱や合唱などの声楽が加わり、劇的な要素が加えられている。全体で1時間半におよぶ大曲だが、今回は

その中から抜粋で演奏される。

第557回札幌定期演奏会 シベリウス交響曲シリーズ Vol.1

3月1日(金) A日程 19:00
3月2日(土) B日程 15:00
札幌コンサートホール大ホール
指揮/尾高 忠明(音楽監督)



尾高忠明(札幌音楽監督) ©Martin Richardson

シベリウス/交響詩「フィンランドイア」

一昨年の「札幌くらぶコンサート」でも尾高忠明の指揮で演奏されたこの交響詩は、シベリウスの代名詞的な作品とも言える。この曲は愛国運動の一環としてつくられた劇音楽をもとに帝政ロシアの支配に抵抗して祖国の民族的自覚の昂揚と独立への意志が込められた名曲だ。この曲がつくられた頃はロシアの官憲によりフィンランド国内では演奏を禁じられていたが、現在では「フィンランド賛歌」として歌詞がつけられ、あの有名な旋律はこの国の準国家のように愛唱されている。

交響曲第3番八長調

いよいよ尾高忠明と札幌によるシベリウス交響曲全曲演奏がス

ターゲットする。その口火を切るのが第3番。壮麗な交響曲第2番を完成した後にシベリウスは、耳の病に苦しむ。そして、ヘルシンキの郊外で隠遁生活のような日々を過ごす。この時に「ヴァイオリン協奏曲」や弦楽四重奏曲「親愛の声」などの傑作が生まれるのだが、この曲もそうした時期に書かれた。

三楽章構成で楽器編成も小さいのだが、より構成的で内省的な方向で書かれ、端正な美しさをもっている。その後の古典性や簡潔主義へと進む転機となった作品である。

■交響曲第1番 短調

フィンランドの色彩でグリゲと共に北欧音楽の巨匠となったシベリウスだが、この作品は彼の個性が十分に表出されておらず、どちらかというと古典交響曲の秩序に基づいた後期ロマン派の傾向が強い。特にチャイコフスキー作品や作曲当時ベルリン滞在中に聴いたヘルリオーズ「幻想交響曲」の影響が強く反映されている。ただ、主題旋律にはシベリウスらしさが感じられ、副主題ではフィンランドの色彩があり、この頃祖国を支配していた帝政ロシアへの反抗心が込められているとも言える。シベリウス特有の保続音が顕著に現れ、彼の7つの交響曲中最も編成が大きいことも特徴である。冒頭の三瓶佳紀のクラリネット独奏や金管楽器の鋭い強奏など随所に聴き所がある。

第558回 札幌定期演奏会

R・エリシユカ・チェコ音楽シリーズ
4月19日(金) 19:00
4月20日(土) 15:00
指揮/ラドミル・エリシユカ

■ドヴォルジャーク/序曲「自然の王国で」



ラドミル・エリシユカ 札幌首席客演指揮者
©MASAHIDE SANO

ドヴォルジャークは、アメリカに渡る直前、「自然と人生と愛」という演奏会用序曲三部作をつくり、まとめてひとつの作品として発表するつもりだったが、出版社の意向で「自然の王国で」「謝肉祭」「オセロ」と3曲が単独の作品として扱われるようになった。この3曲が、まとめて演奏されることは作曲者の母国チェコでも少ないようだ。「自然の王国で」は、作曲者がヴィンカーの別荘で森や田園に囲まれた豊かな自然の中で生まれ、その表現は印象主義的な雰囲気をも漂わせている。

■交響詩「水の精」

ドヴォルジャークは交響詩を5曲残しているが、アメリカから帰国後チェコの国民詩人エルベンの詩集「花束」を題材に4つの交響詩

詩を作曲した。その中から「金の紡ぎ車」「野ばと」をエリシユカ・札幌の名演で、すでにお聞きになった方も多いだろう。「水の精」は、ちよつと残酷な水の精の人間への復讐の物語である。ドヴォルジャークはこの劇的な物語を歌曲のパラードのように描写的な旋律にうつし変えている。

■交響曲第8番 長調

エリシユカ・札幌では、これまでドヴォルジャークの交響曲第5番以降の名演が次々に聞けたが、今回は第8番。ドヴォルジャークは、それまで作品を出版していたジムロック社と折り合いが悪くなりイギリスのノヴェロ社からこの曲を出版した。そのため「イギリス」という愛称が付けられていたが、作品の内容はイギリスとは関係なく、現在はほとんどこの愛称は使われていない。序曲「自然の王国で」同様ヴィンカーの別荘で書かれ、ドヴォルジャークの交響曲の中でも最もボヘミアの国民主義的色彩が濃厚な作品となっている。全体の構成は、ウィーン古典派の交響曲とはかなりかけ離れ、独創的で即興風なところもあり、交響詩のとらえる見方もあるほどだ。

第3楽章は哀愁をおびたストラヴ舞曲風の旋律が優雅に奏でられテレビのCMなどでご存じの方も多いことだろう。

(写真協力/札幌交響楽団)

第1回札幌くらぶサロン開催

札幌くらぶの今年度の新規事業「札幌くらぶサロン」の第1回目が、12月1日(土) 16時から狸小路7丁目の名曲喫茶「ウィーン」で竹津宜男さんのトークによる「札幌アイカイブシリーズ」S1として開催しましたので、その様子をご報告いたします。

まず最初に、札幌くらぶ運営スタッフで司会進行役の鷺頭さんから、本日の会場を提供いただいた札幌とほぼ同年を経てこられた名曲喫茶「ウィーン」マスターの横山さんへ、貴重な録音データをお貸しいただいた札幌交響楽団の宮下事業部長へのお礼の挨拶から始まりました。

そして、講師である竹津さんのご紹介が次のようにありました。
昭和34年 広島大学音楽科卒業、
昭和36年 札幌交響楽団創立団員
(ホルン奏者)、昭和49年 札幌交響楽団事務局、昭和56年 事務局長(平成3年まで)、その間その後、ハイメス設立、キタラ建設、P.M.F誘致、などで活躍、平成24年度札幌芸術賞受賞。

なお、今回のプログラムは次のとおりです。
1961年9月6日札幌交響楽団第1回定期演奏会指揮、荒谷正雄から、前半がモーツァルト/歌劇「フィガロの結婚」序曲K:49、2、クリスティアン・バッハ、J./シンフォニア ニ長調作品18-4、シューベルト/劇音楽「ロザムンデ」。休憩後の後半がベートーヴェン/交響曲第1番ハ長調作品21第1楽章/第4楽章より抜粋。



男さ 12/1
津宜 (12/1)
頭 さん
をす さん
るす さん
すす さん
話の さん
お会 さん
司加 さん
か中 さん
上は さん
写真 さん
名曲 さん

素晴らしかったそうです。第1回定期演奏会の様子もお聞きしましたが、当時の札幌市民会館1698席(現市民ホール)で、立ち見も出る満席の中で行われ、演後は割ればかりの拍手とともに、その後も楽屋口は沢山の人の埋め尽くされたようでした。

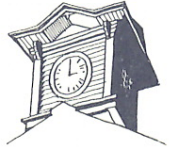
この日の裏話として、当時竹津さんは楽団員の世話役だったので、楽譜係と楽譜係がない状況の中、市民会館の会議室から60脚の椅子を舞台に運び出したのです。そして譜面代を立てて楽譜を並べ、それを全部ひとり準備したそうです。本番前には既にくたくたになっていました、と言う涙の出ているようなお話もありました。

予定されていた2時間があつという間に経過し終了となりましたが、参加者の皆さんは笑顔で満足そうに「ウィーン」の階段を上って帰られました。何名かの方に感想を聞きましたところ、竹津さんのトークがとても面白かった。に続いて、音(演奏技術はもちろん、録音技術と再生オーディオ装置により)が良くてビックリしたとの声が多かったです。この音でもっと曲を聴きたかった、時間が足りなかつたね、との声もありました。次回は、演奏を聴いた感想や関連で思い出す事など、参加者同士のお話の時間なども作れば良いかと思いました。

札幌物語 60

札幌の50年を振り返る(5) 練習場(2)

竹津 宜男 (札幌くらぶ会員)



1972年2月に冬季オリンピック札幌大会が開かれた。オリンピックには芸術部門があるので来日したミュンヘン・フィルハーモニーなどと並んで札幌交響楽団も新しく出来た北海道厚生年金会館(現在、さっぽろ芸術文化の館)で演奏した。それまでは閑静な場所だった南区真駒内にオリンピックの選手村が出来た。選手村はその後真駒内団地になった。また真駒内団地のすぐ丘の上、柏丘のてっぺんにはプレスセンターとして現在の北海道青少年会館(真駒内青少年会館)が出来た。すぐに入居者で埋まった真駒内団地と違って高い利用率が見込まれたプレスセンターの後利用は宿泊施設や会議室はなんとか利用されたが600席の客席を持ったホールは期待されたほど利用者が出てこなかった。そこで札幌交響楽団に優先的に貸し出されることになった。とは言え一般利用者への会場利用料金はそれほど安くなかった。札幌は年間100日以上使用するので特別

に勤労青少年の割引利用価格で練習場として利用させて貰うことになった。真駒内青少年会館は北海道が主たる管理者だったのだが現場のスタッフがとても好意的に対応してくれて本来は許されないホールの通路を楽譜庫として利用させてもらったり、札幌の専用練習場ではないのに楽器を舞台袖に置きっぱなしすることを黙認してもらい、これは有難いことだった。既に3管編成約70人編成になっていた札幌にはステージの音響反響板をセットすると手狭だったので左右の反響版は開け放しで練習に使った。冬季オリンピックのプレスセンターに当てられたので当然暖房設備は備わっていたが夏を想定した冷房はまだ備わっておらず、夏になると楽器搬入口の鉄の扉を始め窓と

言窓は全て開け放しにして風の通り抜けに涼を取るしかなかった。周りが林なので時には蚊に刺されては演奏に集中しなければならぬ時もあった。真駒内青少年会館の周りも間もなく大住宅地になった。会館が最も高い場所にあるためか、また、

森が開け放しの窓からの大音響を少しは吸収してくれていたのか、または住人の皆さんのご理解があったのか夏に窓を開放して練習しても余り苦情は出なかった。私は事務局に入って密かに自ら目標にしたのは楽団員の待遇改善だった。具体的には10年間で倍にしたかった。楽団員の多くは教員免許をもっていて、その中からオーディションを受けて選ばれてオーケストラの楽団員になったのに教員に比べて余りに給料が低いのだ。当時、世間の年毎の予算は4%づつ上がっていた。10年間で50%近く予算は増えることになる。従って、当時の札幌団員の給与を10年間で倍にするとほぼ世間並みになると言う計算だった。しかし思いとは違ってなかなか近づくことが出来ないのが現実だった。

私はフルートの佐々木伸浩さんと連名で1970年頃札幌交響楽団の理事・評議員の皆さん宛に待遇改善の要望書を提出したことがある。当時、楽員会はあったがまだ組合はなかったので皆に迷惑をかけることが無いよう、もし何か不都合があったら2人だけで責任

を取る覚悟をして密かに提出した。幸い理事・評議員の皆さんが初めて楽団員の待遇の事情が分かったと、好意的に受け取って下さり待遇の見直しがされた。こんなこともあったので私自身労働組合の勉強はしていたし、オーケストラのような非営利団体の理想的な組合はどんなものだろうかと悩んではいた。私が事務局に移動した翌年1975年2月に突如札幌交響楽団労働組合が発足した。誕生した組合は私が望んで全員仲良くと言う明るい組合ではなく、特別契約団員や首席奏者達は入れない狭い範囲の組合だった。札幌の練習場が真駒内青少年会館だったためこの1室で団体交渉が行われることが多かった。この時の私の肩書きが主任だったため、管理職でない人間は団体交渉の対象にならない、と急遽課長職に昇任した。

初めての団体交渉お互いに慣れない同士が緊張してのらみ合っていた。去年まで仲間として仲良くしていた同士が立場が替わりと机を叩き蹴飛ばしながら角突き合わせて戦う、テレビで目にする光景になった。とても悲しい毎日だった。(つづく)

ムジカ・アンティカ・サッポロ Vol.2

冬のバロックのひとつときを聴いて

「ムジカ・アンティカ・サッポロ」の2回目の演奏会が、札幌バプテスト教会でありました。

演奏が始まって最初の音が流れ出したとたん、もうバロックの世界です。ヴァイオリンの華やかで且つやさしくふくよかな音、連奏低音の胸にズンとくる響き、合間に聞こえるチェンバロの煌びやかな音色。まさしくバロックです。

演奏会では、楽器は全て当時の楽器、古楽器を全くと息の入れ方で音を変えるそう、これもびっくりしました。

十七・八世紀の音楽をその当時使われていた楽器の演奏で聴く、なんて贅沢なことでしょう。それもすぐ目の前で。当時の人達もこんな風に演奏を楽しんでいたのでしょう。

物部さんの説明によると、古楽器は、楽器の外見は同じだけれど、弦は羊の腸を使っている、現代はそれを金属で巻いているので、音を大きくする事ができるので、チェロは、支えるピンがないので、両足で挟んで演奏するのです。大変そうです。また、その時代のトランペットは今のようにな。ピストンはないので、唇

曲と曲の間には、物部さんが曲の解説をしてくださったので、それも良かったです。また、休憩の時に「自由に楽器を見ていいですよ。」の言葉にたくさんの人が楽器の周りに集まり、土井さんが一生懸命説明してくださりました。

後半はヘンデルの曲で、トランペットやソプラノの歌も加わり、より華やかな演奏になりました。

あつという間の2時間。バロックの世界に浸ることができました。さて、私にとってはこの演奏会が今年最後です。ちなみに今年の1月は、「フライブルクバロックオーケストラ」の演奏会で始まり

ましたので、バロックに始まりバロックで終わった1年でした。

(み)



写真左から、内藤さん、物部さん、土井さん、笹尾さん、明楽さん、土井さん、荒木さんの出演者全員の方々。

随想 本棚の隅から 2

降りしきる雪に街は景色を変え
る。

ストープの傍でロッキングチェアに揺られながら1冊の古いプログラムを手にもって初恋の人の写真を見つけたような想いに耽る。あなたは知っていますか? 「アダム・ハラシエヴィッチ」を…。

ポーランドの美男子で第5回シヨパンコンクールの優勝者。1955年ウラジミール・アシケナージが2位で田中希代子さんが10位に入賞した年です。

ADAM HARSZCZYŃSKI PIANO RECITAL 88
1968年2月13日(火)札幌市民会館
シマノフスキ/変奏曲変口短調
作品3
ラヴェル/ソナチネ

プロコフィエフ/ソナタ第3番
イ短調作品28
シヨパン/バラード第3番変イ
長調作品47
三つのマズルカ

第32番嬰ハ短調作品50-3
第45番イ短調作品67-4
第25番短調作品33-4
二つのワルツ

変ニ長調作品64-1「子犬」
ホ短調遺作
ノクターン嬰ハ長調作品15-2

9

スケルツォ第3番嬰ハ短調作品
39

ご存知の通りシヨパンコンクールは1927年に始まった5年に1度開かれる最も歴史の古いピアノ(シヨパンの曲だけを弾く)コンクールで現在までに16回ありました。そのうち12回目と13回目は1位該当者無しですから、今のところ優勝者は世界中に次の14人しか居ないのです。

レフ・オボリーン、アレクサンデル・ウニンスキー、ヤコフ・サーク、ハリーナ・チエルニーニステファンスカ、アダム・ハラシエヴィッチ、マウリツォ・ポリーニ、マルタ・アルゲリッチ、ギャリック・オールソン、クリス

PRGRAM
バウマン/ヘンデルの
主題による変奏曲
ヴィヴァルディ/フ
ルート協奏曲と短調「夜」
ヴィヴァルディ/ヴァ
イオリン協奏曲「四季」より秋・冬
ハイドン/交響曲104番「ロ
ンドン」
指揮/佐川由紀緒

文化の日カルチャーコンサートを聴いて

演奏/札幌シエヴェーフエル弦楽
合奏団
フルート独奏/北川正子
ヴァイオリン独奏/河邊俊和

雨模様の中、参加者が少ないの
ではないかと心配しましたが、椅子
を追加するほど満席状態でした。
演奏前、偶然河邊さんにお会い
できたのですが「あー、ドキドキ
する」と胸を撫でるのです。

「えっ?河邊さんでもそんなこと
があるんですか?」びっくりしま
した。後で考えたのですが、たく
さん演奏会で弾いていらつしやる
けれど、いつも「初心忘れるべか
らず」の気持ちでいらつしやるの
だと思いました。

日本人では、2位に内田光子、
3位に横山幸雄、4位に中村敏子、
小山実稚恵、山本貴志、関本昌平
などがいます。

遥かな日、札幌ができてまだ湯
気を発しているような時代に、
「シヨパンコンクールの優勝者」
それも若くてハンサムな(今なら
ピアノの貴公子と云われるだろ
う。)が目の前でピアノを弾いて
いる、それだけで感激したのは私
だけでは無いでしょう。

あの冬の宵、札幌市民会館ホー
ルはお洒落をした若い女性達で満
席だった。
雪の匂いはいまも変わらないけ
れど…。(麗)

一曲目、バウマン/ヘンデルの
主題による変奏曲。
これは3番目のエレジーはトレ
モロ奏法で情景を5番目スケル
ツォ6番目フィナーレではプチ
カット奏法を取り入れ東洋的な曲
目でした。

2曲目、ヴィヴァルディ/フ
ルート協奏曲「短調「夜」」
フルートはいつも優しいメロ
ディの曲ばかり聴いておりました
が、また新しい分野のフルートを
発見しました。

3曲目、ヴィヴァルディ/ヴァ
イオリン協奏曲「四季」より ヴィ
ヴァルディ秋・冬。
河邊さんのいつもと変わらず心が
落ち着く演奏にうっとりしました。

休憩後は、ハイドン/交響曲第
104番「ロンドン」。
河邊さんの演奏と合奏団の心が
1つになった曲のようでした。
最後にアンコール曲になり、指揮
者の方が「河邊さんはお願いをす
ると何曲でも弾いて下さるのです
が、今日は1曲だけとお願いしま
した」と聞いて思わず小さく笑っ
てしまいました。(章)

そうなのです、叔母の家で年に
1度開かれるホーム・コンサート
の時も河邊さんは色々な注文にも
応えてくださるのです。
「ヴィヴァルディの四季が聴けて
嬉しかった、ハイドンの「ロンドン」っ
てあれはロンドンだね」と83歳の母
の感想です。
終わった時はものすごい雨と風
でしたが、ヴァイオリン好きな母
と二人ゆたかな気持ちで帰路に着
きました。(横山章子)

「えっ?河邊さんでもそんなこと
があるんですか?」びっくりしま
した。後で考えたのですが、たく
さん演奏会で弾いていらつしやる
けれど、いつも「初心忘れるべか
らず」の気持ちでいらつしやるの
だと思いました。

一曲目、バウマン/ヘンデルの
主題による変奏曲。
これは3番目のエレジーはトレ
モロ奏法で情景を5番目スケル
ツォ6番目フィナーレではプチ
カット奏法を取り入れ東洋的な曲
目でした。

2曲目、ヴィヴァルディ/フ
ルート協奏曲「短調「夜」」
フルートはいつも優しいメロ
ディの曲ばかり聴いておりました
が、また新しい分野のフルートを
発見しました。

3曲目、ヴィヴァルディ/ヴァ
イオリン協奏曲「四季」より ヴィ
ヴァルディ秋・冬。
河邊さんのいつもと変わらず心が
落ち着く演奏にうっとりしました。

休憩後は、ハイドン/交響曲第
104番「ロンドン」。
河邊さんの演奏と合奏団の心が
1つになった曲のようでした。
最後にアンコール曲になり、指揮
者の方が「河邊さんはお願いをす
ると何曲でも弾いて下さるのです
が、今日は1曲だけとお願いしま
した」と聞いて思わず小さく笑っ
てしまいました。(章)

「長年にわたり国際的にポラン
ティア活動を続けていらつしやる
ソロプチミストの皆様からいただ

札幌くらぶ竹津宜男さん! 2012年度札幌芸術賞受賞 おめでとございます。



んのご苦労がわかったようです
ね!「皆さんの御陰で頂いたよう
な気がします。これまでマネー
ジャーは対象外だと思っていたの
ですが、これで私と一緒に私以上
に頑張つて下さった方々皆さんを
代表して受賞させていただきました。
ありがとうございます。」と竹
津さんがコメントしてくれました。

札幌コンサートマスター大平まゆみさんが 2012年度ソロプチミスト社会貢献賞を 受賞しました。



いた「社会貢献賞」。大変光栄な
ことで、その重みを実感しており
ます。ヴァイオリンの音色で、ひ
とりでも多くのかたがたに小さな
幸せ、笑顔をお届けすることがで
きるよう、ずっと弾き続けていき
たいと思います。」と大平さんは
語っていました。

札幌くらのぶのXmasパーティー開催

第2回札幌くらのぶ交流会

12月15日(土) 午後5時30分からテラスレストラン・キタラで札幌くらのぶXmasパーティーを開催し、会員、札幌団員あわせて30名弱が参加しました。

パーティーは、西川副会長の開会のあいさつの後、打楽器の大垣内英伸さんの乾杯で始まり、サイン会、コンサートの案内やビンゴゲームを楽しみました。



写真上2枚、大垣内さんの乾杯で始まり、中2枚、ビンゴゲームでビンゴの賞品(参加会員が提供)を獲得した荒木さん、大垣内さん、下右、コンサートをPRする土井さん、荒木さん、左、一本締めする荒木さん

スタッフの活動報告(平成24年10月~12月)

●パークホテルとJOFCC開催について打ち合せ
10月1日(月)
札幌パークホテルロビー
担当/武藤事務局長

●第7回札幌くらのぶ運営会議開催
10月1日(月)
札幌コンサートホール1階第1会議室
担当/武藤事務局長他13名
JOFCC運営要領、各セクション

●第2回札幌くらのぶサロン開催打ち合わせ
10月10日(水)
エルプラザ2F打合せコーナー
担当/西川副会長ほか3名
名称、曲目選択、チラシ作成、PR方法などを協議しました。

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業
10月13日(土)
札幌コンサートホール大ホール

●JOFCC議案の会長説明
10月22日(月)
札幌市長室
担当/西川副会長他1名
議案の内容について会長に説明、一部JOFCC会員に照会することとしました。

●会報「札幌くらのぶ」第60号発行
10月25日(木)
札幌コンサートホール1階第2会議室

●第6回JOFCC総会in札幌開催
11月10日(土)
札幌パークホテルパールルーム他
担当/上田会長他32名
JOFCC会員7団体等75名が参加して、総会、札幌定演鑑賞、交流会、二次会を開催しました。

●第3回札幌くらのぶサロン開催打ち合わせ
11月29日(木)
名曲喫茶ウイーン
担当/西川副会長ほか2名
現場確認、音響確認、当日役割

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業
12月10日(土)
札幌コンサートホール大ホール
担当/佐藤運営スタッフ
札幌市職員福利厚生会協賛事業として、上野幌中学校41名を招待、送迎バスは(株)そよかせ観光が担当しました。

●札幌くらのぶXmasパーティー開催
12月10日(土)
テラスレストラン Kitara
担当/武藤事務局長他12名
会員、団員約30名が参加して開催、サイン会やビンゴゲームを楽しみました。

担当/武藤事務局長他6名
会報「札幌くらのぶ」第60号を900部発行し、会員、報道機関へ発送し、札幌関係へ配布しました。

●第8回札幌くらのぶ運営会議開催
10月25日(木)
札幌コンサートホール1階第2会議室
担当/武藤事務局長他12名
「JOFCC開催について」「会報第61号の編集企画について」「札幌くらのぶサロン開催について」の協議をしました。

●パークホテルにてJOFCC開催打ち合せ
10月26日(金)
札幌パークホテルパールルーム
担当/武藤事務局長他5名
JOFCC開催会場のレイアウト、制作物、備品使用について打ち合せをしました。

担当/佐藤運営スタッフ
札幌市職員福利厚生会協賛事業として、藻岩中学校21名、西岡北中学校25名、計46名を招待、送迎バスは(株)そよかせ観光が担当しました。

分担進行手順、プログラム作成などを協議しました。
●第1回札幌くらのぶサロン開催
12月1日(土)
名曲喫茶ウイーン
担当/上野運営スタッフ他5名
第1回札幌くらのぶサロンを会員等32名が参加して開催しました。

●第9回札幌くらのぶ運営会議開催
12月3日(木)
札幌コンサートホール1階第2会議室
担当/武藤事務局長他12名
「JOFCCについて」「会報第61号の編集企画の確認について」「札幌くらのぶXmasパーティー開催について」「札幌東京公演鑑賞ツアーについて」を協議しました。

●札幌市内中学校吹奏楽部札幌定期演奏会招待事業
12月10日(土)
札幌コンサートホール大ホール
担当/佐藤運営スタッフ
札幌市職員福利厚生会協賛事業として、上野幌中学校41名を招待、送迎バスは(株)そよかせ観光が担当しました。

編集後記

◆昨年暮れ久しぶりにNHK紅白歌合戦を最初から最後まで観た。脳味噌が薄くなったような気がして元日はお雑煮を味噌仕立てにした。(笑)

◆JOFCCの総会が札幌であり、交流会では、我街のオーケストラ自慢を会員みんなで熱く語り合いました。次回開催地の仙台での再会が楽しみです。(み)

◆今回は2号に亘って小沢札幌専務理事と上田会長の対談を掲載、ボランティア活動の今後の方向を示してくれた。「札幌がまちにあふれる音楽都市さつぽろ」なんと素敵なんだらう！(よし)

◆冬晴れの寒い日。美しく雪化粧した円山を眺ながら思う事は、今年も素敵な人達と音楽に出会えたらいいな！春待ち人。(章)

◆会報「札幌くらのぶ」の原稿を初めて担当しました。素晴らしい沢山の事をコンパクトな文章で伝えるのが難しい。(バンダ)

◆今号も何とか早めに脱稿に漕ぎつけることができ、予定通り発行できそうです。(武)